



## 所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2020年8月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス [tokolabo2013@gmail.com](mailto:tokolabo2013@gmail.com) ホームページ <http://children-foundation-t.jimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。コロナの影響が長期化するにつれて、感染そのものへの不安以外に、自分が感染したら周りから非難されないだろうか、といった心配も耳にするようになりました。原発事故のときにも感じたことですが、理解できないものや異なる価値観を責めるのではなく、相手への思いやりを持って、新しい道を模索していける社会を心から望みます。若く才能ある人の急逝のニュースを聞くにつけても、様々な価値観があるということを前提に、もっとお互いに優しく、そしてある意味遠慮しすぎずに距離を縮めあって、支え合えたらいいなと思います。とこらぼがそうした場の一つとなることを願います。今後も皆様のお力添えをよろしく願いいたします。



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、  
当面のとこらぼの活動について次のようにさせていただきます。

- ①映画会、講演会等のイベントは、オンラインでの開催を予定しています。
- ②公開測定は、気になる食材などスタッフで測定し公開します。
- ③測定依頼は、今まで通り受け付けます。

### ●「とこらぼ」のつぶやき 群馬県産の山菜 セシウム基準値超え 原発事故9年、現場から230km超 「山形産」「長野産」ネット販売からも検出

東京電力福島第一原発から南西に230km以上離れた群馬県西部で採れた一部の山菜に、原発事故後の食品基準(100Bq/kg)を超える放射性セシウムが含まれ、道の駅やインターネットで売られていた。原発から遠い所で、事故から9年以上過ぎても山の恵みが脅かされている実態に、出荷者らは「売る前に気軽に検査できる場所を」と訴える。

木村真三・独協医科大准教授の調査で、4月下旬から、食べ物での内部被ばくを調べる手法の「マーケット・バスケット法」で山菜を調査。各県を車で回り、人口10万人以上の都市を中心に直売所や道の駅で山菜を購入。

その山菜を大学の福島分室にあるゲルマニウム半導体検出器で測定。多くは基準値を下回るか不検出だった。しかし、出荷が規制されていない秋田県産と表示されたコシアブラから基準の2倍を超える210Bq/kgを検出した。

基準値を超えたコシアブラは、ネットでも売られていた。「ふくしま30年プロジェクト」は4月以降、個人売買アプリ「メルカリ」やオークションサイト「ヤフオク!」、通販サイト「楽天市場」で、福島を除く東北五県と群馬など九道県202人の出品者からコシアブラを購入。ゲルマニウム半導体検出器で測った。

五月までに山形県産の4点が109～162Bq/kgと、基準値を超えた。6月にはメルカリで購入した群馬県産表示の物から390Bq/kg、楽天市場で購入した長野県産表示の物から101Bq/kgをそれぞれ検出した。

福島県会津地方や山形、宮城、岩手各県の直売所や道の駅で、コシアブラやコゴミ、ワラビ、原木シイタケなど近県ではなく、さらに離れた場所でも100Bq/kgを超えていた。

こんな状況なのに、5月の国会・衆院復興特別委員会で、基準緩和を促すような発言があった。

木村氏は国会のやりとりを警戒する。「政府が基準緩和に向かえば、国民の被ばくリスクは高まる。直売所やネット上で売る人の被ばくへの意識が風化したから、基準値超えの品が出た。出荷する人に責任を持たせ、それを行政が監視するダブルチェックの体制が必要だ。風評被害を恐れるあまり真剣に調べない自治体も、実害が続いていることを認識するべきだ」

東京新聞 2020年6月29日 より引用

これらの事柄は、原発事故で拡散された放射性物質による実害が9年以上経た現在も、福島県だけではなく、広範囲にわたっていることを物語っています。

毎年「とらぼ」で開催している小豆川勝見先生の講演会でも、先生から「福島県産の食品より、近県の道の駅や直売所で販売しているものの方が要注意です」との言葉があったことを思い出しました。このときは、福島県では全数検査を実施していました。しかし現在福島県も一部の検査です。また今回の記事では近県だけではなく、東日本の広範囲に及んでいることを改めて認識しました。

測定した結果が不検出なら安心、ではありません。大事なことは検出下限値がいくらかということです。そうでなければ一般の食品は国の基準値である100Bq/kg以下ということで、0ではないのです。

「とらぼ」での測定でも、埼玉県産の野菜から10数Bq/kg検出したものもあります。とくに検出の可能性のある、山菜、野生キノコ、原木椎茸、マイタケ、筍などは、測定結果を見てから調理したいものです。

私も旅先の道の駅などで食材を見ていて、これは測定してみたいと思うことが度々あります。「とらぼ」では、検出下限値1Bq/kg以下を目標にして測定しています。

とらぼ主催 オンライン講演会  
「現場に通い続けて10年目、福島の今」  
～放射線測定を通じて分かること～  
[講師] 小豆川勝見先生  
[日程] 10月4日(日) 14時～16時



[申し込み] とらぼホームページの申し込みフォーム

こちら⇒ <https://children-foundation-t.jimdofree.com/>

申し込みされた方に後日オンラインでの試聴方法をご案内致します。  
tokolabo2013@gmail.comから受信できるようにしておいてください。



[視聴料] 無料

\*ご寄附のお願い

先生の継続的な研究には、あなたの暖かいご支援が必要です。  
よろしければ、先生のウェブサイトへ「クレジットでの寄附」をお願い致します。  
ご寄附はこちら⇒<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/kshozugawa/donation.html>



[内容紹介]

私たちは9年前、東日本大震災、福島原発事故という未曾有の経験しました。  
その後も毎年のように次々と各地を襲ってくる自然災害、そして今年は世界規模で震撼させられているコロナ禍に見舞われています。3.11は、あれ程の事故だったにもかかわらず記憶が薄れていくようではありません。

さて、今年も分かり易いと定評のある小豆川勝見先生の講演をオンラインで実現できることとなりました。  
あの時から今現在も現場第一主義で放射線測定を続けている小豆川先生からお話しをうかがい記憶を呼び覚ますには絶好のチャンスです。

今回は何と特別に帰還困難区域で先生が防護服を着て実際に調査活動をされているリアルな映像をご覧いただけます。そこは毎時10～20マイクロシーベルト位の環境下で、私たちの住んでいる場所の250～500倍位の「超」異常事態の場所を映像を通して体験していただけます。

原発事故は自然災害ではありません。原発が稼働している以上いつまた同じ事が起きないとは限りませんし、あの時の事故からの影響はまだ現在進行形です。

「所沢・市民放射線測定室」の活動も準備から数えると9年が過ぎようとしています。  
「何のために測るのか？」それは「市民、何よりも子どもたちの安全を確保するため」、そして「この事故を繰り返さないため」です。

事故の教訓から原発事故を経験した私たちにやれることは何なのか皆様と一緒に考えていく場にできたらとても嬉しいです。

【講師プロフィール】

小豆川 勝見(しょうずがわ かつみ) 先生

1979年生まれ。2008年より東京大学で助教。2011年より福島第一原発から放出された放射線物質の測定を始める。近著に「みんなの放射線測定入門」(岩波書店)、「放射線を科学的に理解する」(共著)(丸善)など。東京都世田谷区教育委員会の放射線アドバイザー。消費者庁の「食と放射能」講師。福島県大熊町の除染検証委員。放射線を分かりやすく子どもに伝える講演会が好評で、これまでに約10000人以上への講演実績あり。

## 【とらぼ会員の声】

### 「コロナ禍にあっても、今尚ふるさと福島は如何に」

私は東京都の瑞穂町というのんびりした所に家族で暮らしております。山菜採りやキノコ採りが趣味な事と福島に親戚がいる事で原発事故が身近なこともあり、しばしば、とらぼ様にお世話になっております。ここ瑞穂町は昔ながらの生活を営んでいらっしゃる方が多く、旬のお野菜のおすそ分けが沢山頂ける素敵なお所です。ご夫婦二人だけの野菜なら買ったほうが安くて楽なように思いますが、皆さん口々に「畑をやらなかったらやる事がない。作った野菜を誰かに美味しいと喜んでもらうのが生きがい。」と仰います。そんな元気に生き生きとした毎日を過ごす、ご近所の方を見るたびに「そんな当たり前の毎日・生きがい・健康が一瞬にして奪われる原発事故が起きるなんて誰も思っていなかったな…」と、つい福島の事を想ってしまいます。除染が終わり、避難解除になった富岡町の祖母の家の前の土を今年初めに持ち帰り測定して頂いたところCs合計 20000Bq/kgという結果でした。これでは自宅に戻ったとしても当然みんなに喜ばれる野菜は作れそうにありません。キノコも採れそうもありません。一夜にして故郷を失った人はもちろん自宅に戻った方も、この先心の底から笑える生活ってないのかも…とご近所さんから頂いたお野菜を眺めながら寂しい気持ちになる事もあります。

戦後日本が短期間で目覚ましい成長と発展を遂げたのは大きな災害に見舞われなかったから。とされておりましたが東日本大震災当時は原発事故もあり「東日本大震災は戦後の日本が直面した最大の危機」と言われました。

しかし東日本大震災と原発事故から9年…この間、各地で起こる地震、大水害、異常気象、そこへきて世界的な新型コロナウイルスの流行と経済的な打撃。先日のニュースで今度は「新型コロナウイルスの流行は日本の戦後最大の危機である」と流れていました。「戦後最大の危機」って上書きされていくんですね…。トリチウム水・放射性物質の放出・除染廃棄物の流出・使用済み燃料…原発事故の後始末は問題が山積みです。今が戦後最大の危機ならば、万が一が起こった場合のリスクが高い原発のあり方を見直すきっかけと捉えたほうが良いのでは？と思えます。

様々な災害・新型コロナウイルスの流行により、目に見えない匂いもない放射性物質への関心は薄れていくでしょう。でも原発は全国各地にありますし、今後も福島と同じ思いをする方が出ない保証はない…原発事故の「あの日」を知っている私は放射性物質や避難した方々のその後など、個人のできる範囲で経過観察したいなと思っております。そんな中「とらぼ」様や様々な問題に関心を寄せて下さる利用者の皆様には大変に励まされており勉強になります。今後ともよろしく願いいたします。

鶴谷恵子



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー  
ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール：[tokolabo2013@gmail.com](mailto:tokolabo2013@gmail.com) 電話：080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。  
登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。